

令和2年度 小坂町総合戦略事業評価シート NO2
(十和田湖和井内エリア整備事業)

		担当課	建設課建設班
総合戦略における基本目標	基本目標Ⅲ「しごと」 地元産業間の連携による地域活性化プロジェクト 夢が実現する、安定した生活が送れるまちづくり		
事業名	十和田湖和井内エリア整備事業(地方創生拠点整備交付金)	実施年度	R2
重要業績評価指標(KPI) ※R2年度末目標	①道の駅十和田ひめます【仮称】の売上高 0万円 ②十和田湖地区における宿泊客数 78.6千人 ③十和田湖地区における観光入込客数 877.9千人	重要業績評価指標(KPI)に対する成果 ※R2年度末実績	①道の駅十和田ひめます【仮称】の売上高 0万円 ②十和田湖地区における宿泊客数 40.5千人 ③十和田湖地区における観光入込客数 379.6千人

事業費(交付金対象額 交付金は対象経費の1/2) (単位:円)

事業費	R2年度		R3年度
	予算(計画申請経費)	決算(対象経費) (交付金交付額)	予算(計画申請経費)
事業費	376,203,000	367,711,705 (183,855,852)	—

R2年度の取り組み

【建物新築工事】

道の駅及び十和田出張所機能を持つ複合施設の建築工事を行った。

- 床面積A=753㎡
- 建築工事
- 電気工事
- 機械設備工事

今後の取り組み

●自立に向けた取り組み

町内外の事業者(観光事業者、漁業協同組合ほか)や地元住民、地元金融機関、町等により施設の運営主体を設立し、自立した運営に取り組み、民間の経営者のノウハウを活かし順調に事業開始し、安定した経営を目指す。

●官民共同に向けた取り組み

官民連携による十和田湖畔の環境整備や誘客促進協議会の活動を強化する一方で、施設への誘客にあたっては、「康楽館」、「小坂鉱山事務所」、「小坂鉄道レールパーク」などをあわせた情報発信や宿泊と体験のセットメニュー、周遊チケットの販売等により相乗効果を発揮するよう取り組みを強化する。

また、小坂町が参加している地域連携DMO「(一社)秋田犬ツーリズム」による地域観光資源のブランド化や情報発信により得られた誘客を活用し、当施設を観光拠点として、周辺観光情報を集約し周遊ルートをつなぎ、観光人口の拡大を図る。

●政策間連携や地域間連携の取り組み

地域資源を活用した「グリーンツーリズム」政策と連携し、地元産食材や新開発ワインなどの優先的な販売を行う。

上十和田湖広域定住自立圏及び大館圏域定住自立圏の協定を最大限に生かし、圏内の観光情報の発信やイベントの開催などにより相乗効果を発揮させる。また、秋田県が行う国道改良事業や環境省が行う緑地公園整備と連携し、十和田湖観光周遊ルートの核となる施設整備を行う。

◆担当部署自己分析

妥当性評価	11	有効性評価	14	効率性評価	8	総合評価	達成度
町が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	5	他に効率的な手法はないか	3	33 / 45	B 相当程度効果的であった。
町民のニーズは高いか	3	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3		
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	5	受益者負担は適当か	2		

※評価基準: 1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である

※担当部署での評価: A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的では無かった E-その他

◆小坂町地域創生本部による客観的分析

妥当性評価	11	有効性評価	12	効率性評価	9	総合評価	評価
町が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	3	32 / 45	B 相当程度効果的であった。
町民のニーズは高いか	3	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3		
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	3		

※評価基準: 1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である

※地域創生本部での評価: A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的では無かった E-その他

意見

・交付金を活用してハード事業整備を行った。今後は、「民間活力による施設運営」、「企業版ふるさと納税の活用」などのソフト事業に取り組む必要がある。

・和井内エリアの活用を大きく変える施設となり得る。今後の展開に期待したい。